

## 第4回 和束町総合保健福祉施設整備検討委員会

### <会議録>

日時：令和元年6月17日（月）午後1時30分～午後3時35分

場所：和束町商工会館 研修室

出席委員	岡田 泰正	和束町議会 総務厚生常任委員長
	谷口 知弘	福知山公立大学教授
	三沢 あき子	京都府山城南保健所長
	桐山 藤重郎	和束町国民健康保険診療所長
	姫野 忠之	和束町社会福祉協議会長
	矢野 光江	和束町民生児童委員協議会副会長
	岩崎 宗雄	和束町老人クラブ連合会副会長
	稲塚 功	特別養護老人ホーム わらく施設長
	喜多 藍	和束保育園保護者会クラス委員
欠席委員	畑 武志	和束町議会 議会運営委員長
	柳 澤 衛	相楽医師会和束町班長
	岡田 勇	和束町身体障害者協議会長

傍聴者：1人

#### 〔会議内容〕

##### 1. 委嘱書交付

新しい委員（3名）に堀町長から委嘱書を交付。

##### 2. 町長挨拶

堀町長からあいさつ。

##### 3. 委員長挨拶

谷口委員長からあいさつ。

##### 4. 委員紹介

事務局より委員を紹介。

## 5. 議 事

### 1) 和東町総合保健福祉施設整備基本計画について

下記資料をもとに、事務局より説明。

資料 1 和東町総合保健福祉施設整備基本計画

参考資料 洪水浸水想定区域及び土砂災害警戒区域について

#### <質疑>

委 員：本施設はシンボル拠点としての位置づけがなされている。現在福祉の仕事に従事しているが、お年寄りが生きがいを持って暮らせるということを考えると、お年寄りに仕事があり役割がありこだわりのある生活が続けられるということではないかと思う。和東町では80歳くらいになっても元気に働いておられる方が多く、その後急にやることがなくなっているという状況もみられる。老人ホームに行く前に、今回計画しているような施設で活躍できる場があればいいと思う。観光客との接点を持つことも考えられるのではないか。

事務局：今回計画している施設は「観光」を目的にしたものではない。但し、町の情報発信や現在町が進めている教育観光との接点は持たせていこうという考え方にはなっている。また、高齢者の方の活躍の場や、子どもと高齢者の交流の仕組みづくりについては、この施設でも考えていこうとしている。

委員長：交流の中には広い意味で観光との関連も含まれると思う。また、どこに整備するのかという場所の問題とも絡んでくるのではないか。

委 員：役場周辺では2～3m程度の浸水が予想されている。それにどのように対処するのかということについては、工法等によって金額も違ってくると思うがどのように考えているか。

事務局：いろいろな工法は考えられる、一般には土盛りするのが人工地盤（ピロティー方式）をつくるよりは安くすむ。また、施設を平屋～2階～3階建にするのかによっても、造成費や人工地盤の建築費は変わってくるので、一概には言えない。仮に役所並みの水準で施設を整備するとなるとピロティー建設には㎡当たり40万円程度の建設費が想定されるので、仮に1,000㎡のピロティーをつくるとなると4億程度は想定される試算になる。

委員：1000年に1度の確率をどうみるかということはある。但し和東町は昭和28年に町が浸かり、111名の犠牲者が出たという事実がある。ただし、当時は和東川の幅もかなり狭かったということもある。

委員：今回提示されている4箇所はどのような基準で選んだのか。

事務局：本日の資料の8頁に記載されているように、住民の利便性を考え町の中心部であること、財政的な面も含め土地確保という視点から公有地であること、それに、一定の規模の土地が確保できることという観点から選定されたものである。ワーキンググループの議論では安全面からいうと候補地A、住民の利便性からみると候補地Dだろうというのが大半の意見であった。また、Aは災害時のインフラ（電気系統）の確保の面からは最も望ましいだろうという意見もあった。

委員：場所を最終的に決めるのはどこになるのか。

委員長：本検討委員会あくまで町に提言として提出するものであり、最終決定機関は町・議会となる。本日は場所の決定にまでは至らないかもしれないが、場所決定のためにはどのようなことを重視すべきかという議論はしていただきたい。

委員：今後高齢化・人口減の時代の中で、高齢者の孤独死も大きな問題となる。そのような問題にも対応できる施設であれば望ましい。また、安心・安全は大事な視点であり今後はコンパクトなまちづくりを考えるべきである。施設の安全性が構造的な対応でカバーできるというのであれば、場所決定には利便性を優先すべきではないか。

事務局：欠席委員から意見を頂いているので紹介する。D案については、浸水想定区域に指定されており、一定の基盤工事をし、かさ上げを行っても周辺が浸水していることから陸の孤島となる。新しい施設は災害時の中枢機能を果たす庁舎の代替機能施設としての役割も担う必要がある。また、福祉避難所の機能を備えるとすればなおさら問題となる。Bも同様に不適であり、C案も地形上適地ではない。今回の4箇所以外にも候補地を広げて検討すべきではないか。また、候補地の評価項目に公共交通の利便性があるが、路線バスの利用者は少なく重要な項目にはならないのではないかと。

委員：通常は、災害危険区域に施設を建てるのは考えられないし、さらに福祉の拠点となるとなさらではないか。A案が問題というのは交通の問題がネックになっているということか。

事務局：現況の交通サービスの現状から判断している。

委員長：今後は新しい交通のあり方についても検討されるべきだろう。現在住民タクシーなどの議論も含めて、コミュニティで住民の足を支えるという議論も出ている。その面からは現状の交通アクセスとは違う見方もあるかもしれない。

事務局：そのような意見はワーキンググループでも出た。ただ、コミュニティバスや新たな交通手段を考えると、年間のコストだけでも数千万円のお金がかかり、あまり現実的ではないという意見であった。

委員：今後高齢者もさらに増えていくことを考えれば、役場以外でのアクセスは厳しいと思う。

委員：自宅から最寄りのバス停まで行くことができるか？ということも今後問題となる。

委員：災害の時は自宅にいる。避難所に行くまでの危険性の方が大きい。

委員：現在、役場より南の地区に住んでいるが、避難準備の指示がでた場合に自分のところより低い役場周辺の避難は考えられない。又、役場から離れたところに造るのであれば、福祉課だけが移動することになり、それも問題があると思う。

委員：現在、仕事として居宅の福祉サービスに係わっている。今、話が出るのは将来移動のための足がなくなったらどうなるかと心配する声大きい。最近自動運転のニュースなどもみられるが、将来はドアツードアの自動運転システムが導入されれば和東町でも安心して暮らすことができ、それなら新たな施設は安全なところがいい。

委員長：確かに技術的進歩はめざましいものがあり、新たな発想で考えていく必要があるかもしれない。今回は公共交通の再編のあり方も含めて議論する必要があるかもしれない。また、機能を考える視点としては、観光の面もあるのではないか。

和東町では援農や外国人の来訪も含め、和東の風景にほれ込んだ熱烈なファンがリピートで訪れている。そのような方との交流も一つの視点だろう。欠席委員の言われる第5の候補地を考えることについてはいかがか。

事務局：財源的な問題から難しいことではある。但し、この他にも公有地がないことはないので、検討の幅を広げることは不可能ではない。

町長：今後のまちづくりは全て公共が担うのではなく、自分の身は自分で守り、さらに共助の考え方だと思う。和東町は茶源郷という理想郷を掲げ、住民が主体となったまちづくりの考えで進めている。そのことを踏まえ、このような施設を考える時には、交通とか災害とかいう一面からだけではなく、様々な人々がふれあい交流を生み出す、積極的なまちづくりの拠点になるべきだと思う。そうすることにより、今後の町の交通の在り方や高齢者問題の考え方にもつながってくるだろう。この委員会の提言についてもこの施設のことだけでなく、他の面のまちづくりの考え方も連動されていいのではないかと思っている。先日も国の農村振興局長が和東の農泊について話をされた。この施設づくりを通じて国を動かす力になるようなものを検討してもらいたい。お金の問題は今回の複合施設を分解していろいろ手立てすることも考えられる。

委員：和東電気の跡地は考えられないか。お茶の駅との一体化も考えられるのではないか。将来的にはトンネルが抜ける道路ともつながる。

委員長：町の体力もあるので、あまりお金はかけないがみんなの知恵を集めて、和東が持つ色々な地域資源を活用できる施設が望ましいだろう。また、次の世代に負の遺産を残さないことも必要である。保健・医療関連の施設としてはできる限り災害の危険が少ない地域が望ましいという意見であったと思う。あるいは100年に1回は困るけれど1000年に1回は浸かることを前提にした施設を造ろうという議論もあるかもしれない。また、今後の高齢者社会における交通の問題も含めて検討すべきだという意見として集約しておきたい。

## 2) 住民ワークショップの開催について

下記資料をもとに、事務局より説明。

### 資料2 住民ワークショップの開催について

#### <質疑>

委員長：ワークショップの会議スタイルとしては、場所の議論も含めてやってもらうことになると思うが、ワークショップの開催方法についてご意見はあるか。

委員：4年前の若者ミーティングに参加し、その時に「未来新聞」を作ったが、その時の経験が今に繋がっている。住民が参加し考える機会を作ってもらうことはいいことである。

委員長：今日の議論にも出た「観光」とか「教育」といった関係者に出ていただくこともいいだろう。また、今回の施設に関する人には極力集まってもらうことが大事だと思う。

委員：子育て世代からすると、平日の午前中がいい。託児機能があるとすれば土・日でも可能である。

委員長：ワークショップでは候補地のことも含めて機能や内容について議論してもらったらいだろう。

## 3) 意見交換

#### <主な意見>

委員：気楽に触れ合えるサロンのようなものが求められる。そんな環境の中で診療もしてもらえるような場であればいいと思う。

委員長：これからは5人に1人が認知症になると言われている。最近の話題では「認知症レストラン（注文を間違えるレストラン）」の話もあり、認知症に関する関心を広める動きもみられる。

委員：地元のおじいちゃんが話をしながらお茶のサービスをしてくれるところがあって、その場を体験したら非常にいい体験ができた。地元のおじいちゃんが歴史あるお茶を入れてくれるということは、和束町の大きな資源・価値ともなる。

委員：去年農泊で天ぷらを出してあげたら、天ぷらが家で食べられることに驚いていた。

委員：中国人が来たが、今では会話がスマホでも対応できるようになっている。フランス人も来たが案内できた。

委員：出張スタイルのワークショップはできないか。

事務局：15地区もありそれは難しい。機会を捉えてさらに住民に広く周知させていきたい。

委員長：今日は貴重な意見交換ができたので、各委員におかれてはまずは家族の人たちにも伝えていただきたい。

## 6. その他

事務局：次回の検討委員会は8月下旬を予定しているが、ワークショップの開催時期の関係もあるので、今後調整させていただき、決定次第、速やかに連絡する。

## 7. 閉会

会議閉会に当たり岩崎副委員長から挨拶。

本日は様々な議論をしていただいた。住民のワークショップも今後開かれるので、さらにいろいろな意見を聞くなかで進めていきたい。